

# 太宰府の文化財

428

## 「四王」と記された文字瓦

### 大宰府条坊跡第336次調査出土 平安時代

昨年の6～8月にかけて行った発掘調査で、文字が記された丸瓦が見つかりました。出土した場所は坂本公園から南に下った住宅街の一角で、瓦には「四王」という文字が確認できました。この「四王」という文字が築かれた四王寺山にかつて存在した「四王院(四王寺)」を示しているものと考えられています。



出土した「四王」銘文字瓦



「四王」銘文字瓦(拓本)

『類聚三代格』には宝龜五(774)

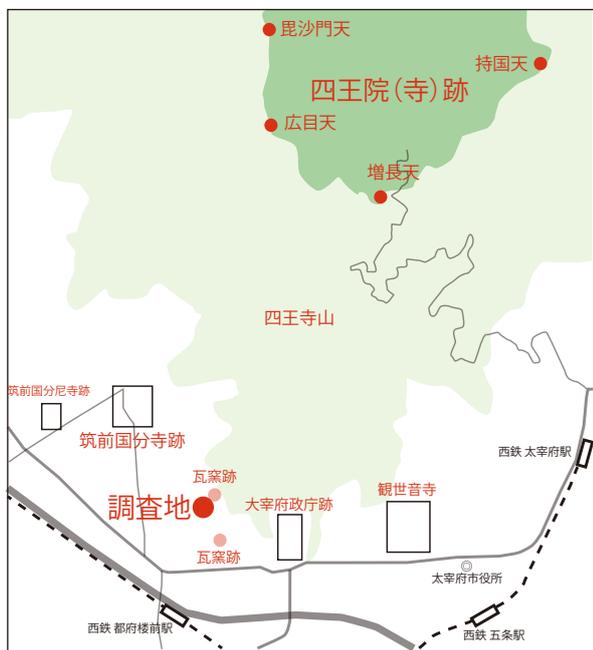
年に新羅国に対して、大宰府は眺望が利く高い場所に4体の像を造り四天王寺(四王院)を設置したことが記されています。新羅との政治的な緊張関係を背景に設置された四王院ですが、延暦二十(801)年に一時的に寺の機能を停止させ、筑前国分寺に堂舎法物を移したことが『類聚国史』に記されています。しかし、その

5年後の大同二(806)年には、疫病が流行したことを理由として、筑前国分寺から四王寺山に返されました。

「四王」銘の文字瓦は筑前国分寺跡や政庁跡、大宰府条坊跡などで出土が確認されています。瓦はいずれも形を整える際に使用される叩板の外面に格子目とともに文字が彫られています。これまでに見つかっている文字瓦は、広めの格子目に大きく四王と記されたものと、細かな格子目に小さく四王が記されたものの二つのタイプが知られています。今回の調査で見つかった瓦は、広めの格子

目に小さく四王の文字が記されており、これまで知られていたものとは異なるタイプの文字瓦であることが分かりました。

文字瓦は、格子目の形や出土地が筑前国分寺に近いことなどから、四王寺山から筑前国分寺に四王院が移されたころの瓦と考えられそうです。また、出土地周辺には瓦を焼いた来木北瓦窯があることから、近くで四王院に供給するための瓦が作られていたのかも知れません。今回見つかった「四王」銘の文字瓦は、新発見のタイプのもので、四王院の堂舎に使われていた瓦に複数の種類の瓦があったことが分かりました。



調査位置図と四王院(寺)跡

文化財課  
中村 茂央